

実践報告

『実践：日本語教育 I & II 2007』企画実施報告 — (2)

I. ボランティア日本語教師養成講座『実践日本語教育シンポジウム』(07.9.1.)

II. 『夏休みの宿題の助っ人：留学生の母語による学習支援』(07.8.22./8.23.)

福 岡 昌 子

Report on “Practical Japanese Language Teaching I & II 2007” (Part 2)

“Volunteer Japanese Teacher Training Symposium” (9/1/2007) & “Summer Homework Helpers: Learning Support Using the First Language of Foreign Learners” (8/22/2007 and 8/23/2007)

FUKUOKA Masako

〈Abstract〉

Practical Japanese Language Teaching Sessions I & II were delivered by the Center for International Education and Research (CIER) in 2007. This Report focuses on the “Practical Japanese Language Teaching Session II” on August 22/23, 2007. “Practical Japanese Language Teaching II” subtitled “Summer Homework Helpers: Learning Support Using the First Language of Foreign Learners”. This project was delivered under the auspices of Suzuka and Matsuzaka City Board of Education.

The project aimed to provide children of foreign origin with an opportunity to consider the life of foreign students who visited Japan from distant places to study Japanese, the importance of learning, and their own future in Japan. We were accompanied by 10 foreign students from our university, and visited Sakurajima Elementary School in Suzuka City on August 22 nd, 2007 and the Rinpogan building in Matsuzaka City on August 23 rd, 2007. The foreign students taught mathematics and gave summer homework help as well as played games originating in their home countries with the children. The foreign students used their first languages; Spanish, Portuguese, Tagalog and Chinese so that the children could understand easily.

The two days were meaningful learning experience for both the children and the university students. The project also enjoyed popularity among the elementary school teachers who participated.

キーワード：留学生、在住外国人、外国籍児童、母語、学習支援活動

1. はじめに

三重大学国際交流センターでは、2007 年度の三重大学国際交流基金⁽¹⁾の助成を受け、『実践：日本語教育 I & II』を行った。本事業は、平成 16 年 8 月 28 日に行った同基金の助成によるボランティア日本語教師養成講座『実践：日本語教育』の継続事業であり、2 に示すように 2 本立ての企画である。先号では、『実践：日本語教育 I & II』におけるボ

ランティア日本語教師養成講座『実践日本語教育シンポジウム』（07. 9. 1.）を報告したが、本号では『夏休みの宿題の助っ人：留学生の母語による学習支援』（07. 8. 22./8. 23.）を報告する。

2. 『実践：日本語教育Ⅰ&Ⅱ』の概要

まず、先号と重複するところがあるが、『実践：日本語教育Ⅰ&Ⅱ』の概要について述べる。『実践：日本語教育Ⅰ』は、地域の国際交流と異文化理解および地域の日本語指導への貢献を共に考える場として、2007年9月1日に本学メディアホールにてボランティア日本語教師養成講座を開催した。今回『実践：日本語教育』の主たる目的は次の3点である。①国際交流センターが地域のボランティア日本語教師と交流を深めることにより、知識や経験を交換し、地域の日本語指導、地域の国際交流や異文化理解の一助となること、②日本語教育専門家による実際の指導に応用できるモデル授業を通して、ボランティア日本語教師の指導技術の質的向上を図ること、③日本語指導のための実践的な研修の場として大学が担える役割について、再度検討する機会とすることである。

『実践：日本語教育Ⅰ』は、「話す」というスキルの上達をテーマとした。午前では、どのような指導がこれまで自分の会話力の向上に役立ったか、いかにして現在の会話力を身につけたか、4人の日本語学習者が体験を述べた。鈴鹿国際大学4年のヒリー・アサジさん（インドネシア）、松阪市教育委員会母語スタッフのウボン・ナカタさん（タイ）、三重大学大学院の王智鵬さん（中国）、同大学大学院のカルロス・オチャンテ・村井さん（ペルー）が発表を行った。また、午後には、早稲田大学大学院日本語教育研究科の川口義一教授を招き、「日本語指導の秘訣－学生を乗せて、上達させる教室活動一挙紹介！」と題して講演会が開催された。さらに、国際交流センターで学ぶ初級後半から中級レベルの留学生合計8名を対象に、モデル授業が行われた。会場の出席者には、日頃の指導にすぐ応用できるテクニックが学べたと大好評だった。

もう一つの企画である『実践：日本語教育Ⅱ』は、サブタイトルが『夏休みの宿題の助っ人：留学生の母語による学習支援』と称し、福岡が10名の本学の留学生とともに、2007年8月22日は鈴鹿市桜島小学校、8月23日は松阪市第2隣保館へ赴き、外国籍の子供たちへ学習支援および進路相談を行った。留学生がスペイン語、ポルトガル語、タガログ語、中国語などを使って、外国籍の子供たちのわかる母語で、算数や夏休みの宿題を教えたり、留学生の国の遊びを一緒に遊んだりした。子供たちにも留学生にとっても、有意義な2日間を過ごすことができた。2日間で60名の小中学生が来てくれた。

以下、3では『夏休みの宿題の助っ人：留学生の母語による学習支援』の背景と学習支

援活動スケジュール、4 では留学生による学習支援の内容や留学生による研究発表について報告し、最後に『夏休みの宿題の助っ人：留学生の母語による学習支援』から見えてくるものと今後の課題について考える。

3. 『夏休みの宿題の助っ人：留学生の母語による学習支援』の背景及び活動スケジュール

3.1 『夏休みの宿題の助っ人：留学生の母語による学習支援』の背景

近年、「日本語を母語としない」児童生徒が全国の小中学校等に増加し、これらの児童生徒に対する教育的課題には、国や教育行政に関わる担当者ばかりでなく、研究者、NPO、学校現場の教員やボランティアなど、共に新しい教育的課題として取り組もうとする動きが全国で展開されている。

三重県においても、在住外国人が増加し⁽²⁾、定住化傾向にある一方、不就学児童の増加や「日本語を母語としない」児童生徒への日本語指導や適応指導などの面で、様々な課題が大きくなってきている。四日市市や鈴鹿市では、行政が積極的にこの問題に取り組んでいる地域でもある。

実施するにあたり、まず、できることから始めることにし、留学生の母語による学習支援活動を行うことにした。外国籍の子供たちに、遠い国々からわざわざ日本へ来て勉強する留学生の存在や、学ぶことの大切さ、そして、これから日本で生きていく自分たちの将来について、考える機会となつてほしいという願いを込めて実施することにした。幸いにして、三重県教育委員会の小中学校教育室の紹介により、鈴鹿市教育委員会および松阪市教育委員会の後援を得ることができた。両教育委員会を通じて、実施前に会場となる小学校や日本語教育施設機関を訪問して打ち合わせを行うとともに、取り出し授業や放課後の外国籍児童への取り組み等について話を伺う機会を得た。

3.2 留学生による学習支援のための活動スケジュール

1) 「夏休みの宿題の助っ人」の学習支援へ参加協力してくれた留学生⁽³⁾

外国籍児童への学習支援の趣旨に賛同し参加してくれた留学生は、下記の通りである。
ポルトガル語話者：クリスティーナ・ヤマネ（京都外国語大学）、マレーレ・サイトウ（フリー）、スペイン語話者：カルロス・オチャンテ・ムライ（三重大学）、クエルボ・ジラルド・ノルマ（同）、ゴメス ララ ホナス（同）、タガログ語話者：オプレシオ・メルシー・ベラ（同）、ラヤット・グレン・パタンガン（同）、中国語話者：郁丹（同）、陳林妹（同）、寺田素子（三重大学「日本語学習サポートサークル」メンバー）、廣田千佳子（同）

4.2 国の紹介と自分の研究の紹介

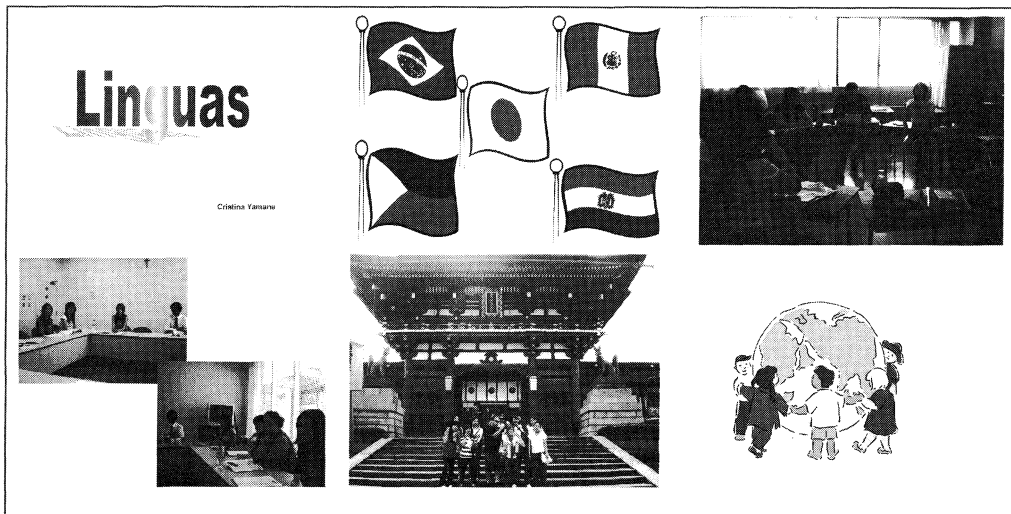
1) ポルトガル語グループ

●ブラジルの紹介 マレーレ・サイトウ



●自分の研究の発表 クリスティーナ・ヤマネ

大学で英語やコミュニケーション学を学ぶ楽しさを発表した。

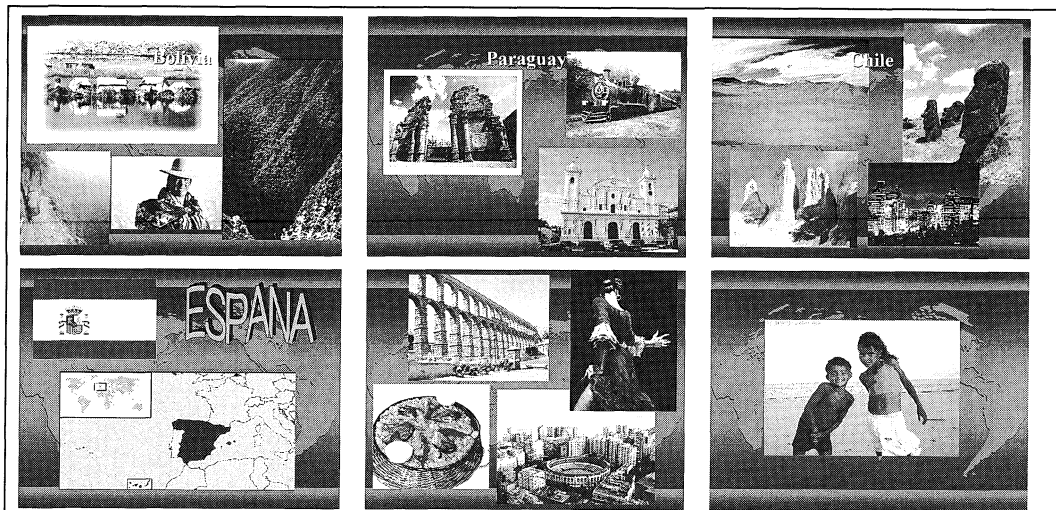


2) スペイン語グループ

● スペイン語圏の紹介 クエルボ・ジラルド・ノルマ、ゴメス ララ ホナス

スペインの大航海時代の歴史にも触れながら、スペイン語が話されている国の紹介を行った。





● 自分の研究の発表 カルロス・オチャンテ・ムライ

ブラジル人の移民の歴史にも触れながら、訪問先のエスペランサ教室といっぽ教室の子供たちが、どんな教科が苦手とするか、会場でアンケート調査をし、その場で集計結果を子供たちに見せた。

La inmigración y
Los niños extranjeros en Japón

Carlos Ochante
Universidad de Mie Dp.Humanidades
2do año Posgrado

La situación de los niños extranjeros
en escuelas japonesas

- Numero de niños: Aprox. 300 mil
- Niños en escuelas Japonesas
- Niños en escuelas extranjeras (brazileras, peruanas)
- ¿Niños que no van a la escuela?
- Niños con necesidad de clases de japones: Aprox. 20 mil

1. ¿Qué es la inmigración?

■ ¿Porqué viajamos?

Hacer encuestas para saber lo
que los niños piensan

- Hacer Preguntas sobre ¿qué?
- 1. Sobre estudio: Japonés, matemáticas, etc.
- 2. Sobre la familia: idioma con el que hablas con tus padres, hermanos, amigos etc.

¿Porque venimos a Japón?

Los extranjeros en Japón

- ¿El numero de extranjeros en Japón?
- Numero de extranjeros: Aprox. 2 millones
- Numero de niños: Aprox. 300 mil
- Niños con necesidad de clases de japones: Aprox. 20 mil

¿Como vemos lo que piensan
los niños?

- Pregunta modelo:
- ¿Que curso puedes más?

3) タガログ語グループ

● タガログ語圏の紹介 オプレシオ・メルシー・ベラ



●自分の研究の発表 ラヤット・グレン・パタンガングレン

工学部での研究を子供たちにわかりやすく説明した。



4) 中国語グループ

●中国の紹介：陳林妹（三重大学）

中国の国歌を披露するなど、楽しく中国の紹介を行った。

中国简介

今天给大家介绍一些中国的事情，比如说中国国旗，国歌，一些地理知识，旅游景点，特色小吃等等。希望能让大家更了解自己的祖国—中国。

中国地图

1.中国国旗

- 中华人民共和国国旗是五星红旗。中华人民共和国国旗旗面为红色象征革命。旗上的五颗五角星及其相互关系象征共产党领导下的革命人民大团结。星用黄色是为着在红地上显出光明，四颗小五角星各有一角正对着一颗大的中心点，表示围绕着一个中心而团结。

2.中国国歌

- 中华人民共和国国歌是《义勇军进行曲》。中华人民共和国国歌由诗人田汉作词、音乐家聂耳作曲，创作于1935年。

“起来！
不愿做奴隶的人们！
把我们的血肉，筑成我们新的长城！
中华民族到了最危险的时候，
每个人被迫着发出最后的吼声。
起来！起来！起来！
我们万众一心，
冒着敌人的炮火前进！
冒着敌人的炮火前进！
前进！前进！进！”

3.中国的美景

西北的大草原

东北的雪景

江南的风光

江南好
白居易
江南好，风景旧曾谙。
日出江花红似火，
春来江水绿如蓝。
能不忆江南？

南方的山水

漓江的山水

4.中国的美食

- 菜系因地理、气候、习俗、特产的不同形成了不同的地方风味。菜系的划分单就汉族的饮食特点而言，有八大菜系之说：川菜，鲁菜，粤菜，苏菜，湘菜，浙菜，徽菜，闽菜。
- 接下来，给大家介绍各具特色的风味小吃。

4.3 留学生、子供たち、参加した関係者の感想

1) 留学生の感想

22日、23日に鈴鹿と松阪の小学校に行ってきました。何をしに行ったかと言うと、在日の外国の子供たちに母語で宿題を教えたり、皆で遊んだりしました。疲れましたが、すごく楽しかったです。一つ感心したことがあります。日本語がほとんど分からない子がいますが、最初は彼らはほとんど黙っていました。しかし、私たちに声をかけられると、しゃべり始めました。楽しそうな顔を見て、よかったと思いました。皆さんは遠いところから、日本にやってきて、最初日本語が分からなくて、つらいと思います。しかし、日本に来た以上、日本語を勉強しなければならないと思います。ですから、皆さんに頑張ってもらいたいのは、まず日本語をしっかりと勉強することです。そして、日本語がよく分からないお母さん、お父さんたちに日本語を教えることです。お互いに勉強したら、日本での生活がさらに楽しくなると 생각합니다。二つの学校から見ると、先生方も外国人の子供たちにより教育をしてあげるために、頑張っていることが分かりました。この二日間、皆さんに教えに行きましたが、皆さんからも教わりました。いろいろ見て、聞いて、すごく勉強になりました。自分もさらに日本で頑張らなければならない気持ちが出てきました。皆さん、ありがとうございました。(陳林妹)

I was chosen by Prof. Masako Fukuoka of Mie University Center for International Education and Research as one of the foreign students who will do a small part time job in summer of August 2007.

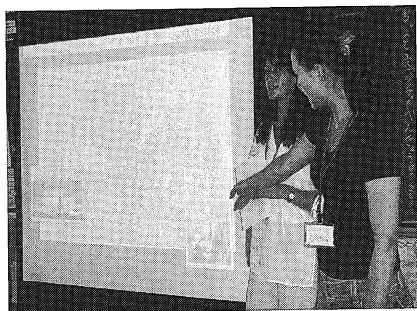
At first, I have practically no idea on what this arubaito is all about because it was my first time for such a work. However, I did not hesitate to join the group of foreign students, Filipinos, Brazilians, Chinese, Peruvian, Colombian and Spanish because most of them are my friends. Moreover, I was interested in doing part time job especially with this kind of work.

Through a series of meeting with Fukuoka Sensei, we slowly learned the things that we were to do in that part time job. That is basically, to teach elementary school kids of foreign descent like Filipinos, Peruvian and Brazilians for two days in two different elementary schools in Mie Prefecture.

I became so excited of the fact that I will be able to meet people from my country and from other countries as well in this worthy endeavor.

Thus came the days of the part time job. Suzuka was for the first day and Matsusaka was for the second day. When we arrived the site, we were welcomed enthusiastically by the school administrators and some teachers. Then we started the activities first by introducing ourselves to the kids and their teachers. Also, we told them of our purpose of visiting their school. It was a lot of fun. The school children eagerly paid attention to the different speakers who are their older sisters and brothers.

We the foreign students of Mie University talked about our research as well as introduced our countries to the kids. We were definitely delighted to see all of them enjoyed our Powerpoint presentation that we prepared. Moreover, we taught them of their respective homeworks as well as encouraged them to do their best always by studying hard. It was heart-warming indeed being part of this group for two days, teaching small children of the importance of education in their lives, and bringing with them the fulfillment and the joy of helping others. (Glenn P. Rayat)



「夏休みの宿題の助っ人」活動结束了，在福冈老师的精心准备下，以及各位留学生的协助下，终于圆满地结束了，两天时间忙忙碌碌，甚至有些疲惫，但却非常有意义，给我留下了深刻的印象，也让我感受到了一种被重视的感觉。

那些可爱的孩子们由于父母在日本工作，在语言不通的情况下跟随父母来到日本，不管是生活还是学习都会有一定的影响。周围的一切对他们来说都是那么陌生，由于语言的关系，他们一时很难交到朋友，有时会很孤单，学习也跟不上，甚至造成性格孤僻。在这个时候，这样的活动将给小朋友们带来很多欢乐，不仅在学习上得到些许帮助，更在精神有了交流的机会，通过游戏使他们彻底放松，不再背负太多精神压力。

对于我们这些出门在外的游子来说也不失为一个磨练自己的好机会，我们同样面临小朋友们的困境，在帮助孩子们的同时，也感受到了一种国际性的关爱。（郁丹）

三重県で10年間も住んでいると外国人の増加と定住化を見てきて、子どもたちは元気に育ってきているな、これから楽しみだなと期待をしています。この企画によって、子ども達が先輩の私たちと触れ合い、勉強をし続けることへの楽しさと大切さを少しでも学んだのではないかと思います。鈴鹿の桜島小学校では、ペルー人が多く参加してくれて、皆まじめに勉強をできてブラジル人や日本人にほめられるほどだったので、とても嬉しかったです。しかも、全体的に皆が勉強に対しての意欲があって、またゲームにも元気いっぱい遊んでくれてよかったと思います。次の日の松阪には、フィリピンの子どもたちがいっぱい来て、言語の面では不安だったけど皆英語や日

本語ができて通じました。ゲームの時間にはもう皆がへとへとだったけれども、無事に終わることができて、充実した二日間を送ることができたなと思います。難しい漢字や通じない言葉では学校生活が楽しくないはず、しかし、こうやっていろんな人と勉強したり遊んだりしたら、楽しくできたと思います。教育現場にいる私は、子ども達の言語習得などの問題を見えています。彼らにとって言語は勉強をするために必要不可欠な道具です。だから、彼らはこれからどうすれば楽しく勉強できるのかを考えなければならない。この企画のような活動にこれからもっと沢山の子ども達が参加してほしいと思います。

(カルロス・オチャンテ・村井)

2) 教育関係者の感想

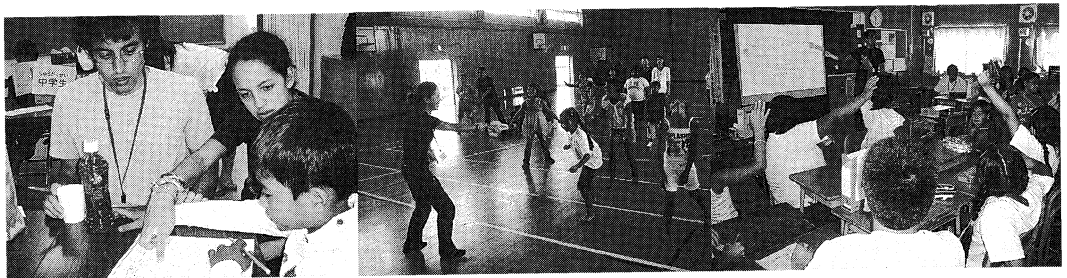
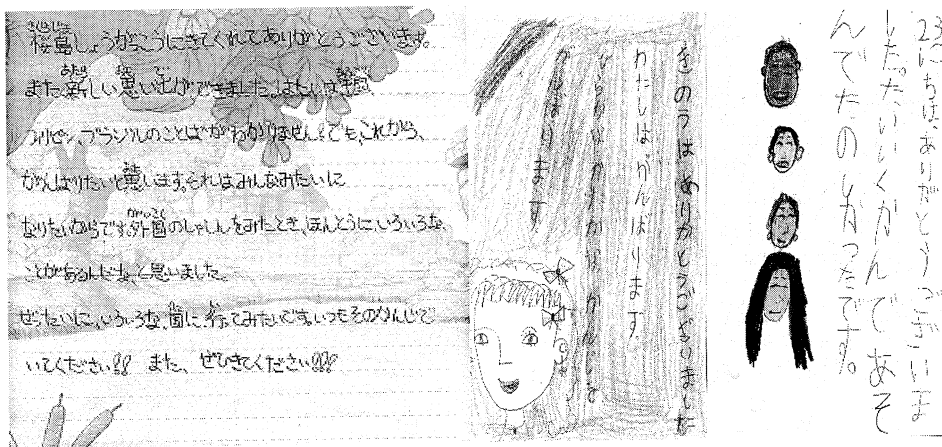
子どもたちは、一日とても楽しそうでした。留学生のお姉さんやお兄さんが勉強していることをパワーポイントを使って説明してくれたので、子どもたちにもわかりやすくとてもよかったです。特に人間の進化についての発表は面白かったです。また、日本の学校での宿題は外国の子どもたちにとってとても難しいですが、この日は、母語で勉強を教えてもらって、わかった喜びをたくさん味わうことができたと思います。体育館での遊びもよかったです。みんなで遊ぶことによって、ことばは違っても仲良くなれます。遊びで子ども同士、大人と子供、が仲良くなれて本当によかったです。ぜひまたこのような機会をつくれたらいいと思います。ありがとうございました。

<松阪市教育委員会 母語スタッフ ヤザキルミ>

子どもたちの生き生きした姿や素敵な笑顔をたくさん見ることができた一日でした。まず、子どもたちにとって、自分の国出身の大学生との出会いがとても嬉しく、そのことから大きな元気をもらったようです。外国人児童生徒にとって、教科の学習を理解することは非常に難しいことですが、夏休みの宿題や算数を母語で教えてもらうという貴重な機会をいただき、子どもたちは「わかった」喜びをたくさん味わうことができました。また、松阪の場合、「にじ教室」の夏休みスペシャルデーとして、いくつかの小中学校から参加者がありました。体育館での遊びを通して、子どもたちに新たなつながりができたことも大きな成果だったと思います。福岡先生をはじめ留学生の皆様には、参加する子どもたちの状況を踏まえて、さまざまな工夫や配慮をしていただきました。ありがとうございました。今後も、このように大学と連携させていただくことができれば素晴らしいと思います。

<松阪市教育委員会 人権まなび課 水野宏美>

3) 子供たちからの手紙



5. 『夏休みの宿題の助っ人：留学生の母語による学習支援』(07. 8. 22./8. 23.) から見えるものと今後の課題

本学の国際交流基金の助成を受け、『夏休みの宿題の助っ人：留学生の母語による学習支援』を企画した際に、また、日本で暮らす外国籍の子供たちにできることは何かを考えた際に、夢を持ってもらうことが一番だと考えた。一時滞在ではなく永住を視野に入れた保護者の下で育つ彼らに、日本で暮らしていく自信を持ってもらいたい、生きていく方向性を見出してもらいたいという思いで本活動を始めた。日本全国で行われている外国籍児童を支援する様々な取り組みや活動に関わる人々の思いには程遠く、叱責を受けるものであると思われるが、こうした思いが出発点であった。

この思いを、本活動の主体となる留学生に理解してもらうことも、活動として大切なことであり、時間をかける必要があったため、実施5ヶ月前から何度かミーティングを行った。留学生には、自分と同じ言語を話す子供達が近年増加していること、日本語や教科の点で日本人の子供達と比べ遅れがちであること、日本滞在が長期化する親たちと母語や日

本語でコミュニケーションが取れなくなっていることなどを理解した。そして、留学生がなぜ遠い日本へわざわざ来て勉強しているのか、留学生の存在を彼らに知ってもらい、日本で生きる目標を見出してほしいという趣旨も理解してくれた。そして、彼らの Hero、Heroine にという目標を持って、自分の国や研究を紹介するパワーポイント資料の準備や暑い体育館の中で「遊び」の予行練習も積極的に参加してくれた。2007 年度は、たまたまポルトガル語、スペイン語、タガログ語話者が留学生にいたことも、この活動が実現できた一因となった。本活動の後で、これまで一言も話せなかったフィリピンから来た児童が、積極的に学習に向かう姿が見られるようになったという嬉しい知らせも届いた。現在、本活動に参加した留学生は帰国または卒業しているが、子供達と過ごした楽しい 2 日間は、「宿題の助っ人」たちにとっても日本で記憶に残る 1 頁を刻んだのではないだろうか。

確かに、昨今日本生まれの外国籍の子供達は年々多くなる一方で、彼らを取り巻く身近な環境では母語の重要性を考える余裕はないように思われる。中島 (2008) は、2008 年度日本語教育学会中部地区研究集会においても、「多文化共生社会を築く日本語講師へ：母語指導における母語の役割」というタイトルで外国籍児童の母語の重要性を提唱している。外国籍児童の自分のルーツを知り、アイデンティティの確立を促す意味でも、母語保持は重要であると思われるが、現実には厳しい状況がある。日本で外国籍の子供達が生き生きと育つ社会を目指して、文化庁による「生活者としての外国人」事業が開始され⁽⁴⁾、関係省庁や行政もようやく力を注ぎ始めている。NPO や市民ばかりでなく、ボランティア日本語教師もその使命感に燃えて活動している姿は頼もしく感じられる。

日本で暮らす外国籍児童を巡る課題は、日本語教育関係者は少なくとも共に一丸となって考えなくてはならない課題であると思う。本センターでも故森由紀教員が早くからこの問題に関わり、活動を行っていたにもかかわらず、センターが共に取り組むべき課題として認識しえなかったことが残念でならない。今後も、単発的な事業で終わらせるのではなく、継続的な取り組みとして活動を行い、本学の日本語教育関係者が団結して、大きな地域支援活動をしていければと切に思う。

6. おわりに

『実践：日本語教育 I & II 2007』を実施することによって、多文化共生社会を共に築こうとする日本語ボランティア日本語教師、小中学校の教師、多くの日本語教育関係者と相互交流を図ることができた。また、地域の日本語教育の指導、地域の国際交流や異文化理解への一助となることができ、本学の日本語教育専門家として、地域に何ができるか、何が必要とされているか、これまで以上に理解を深めることができた。今後も、国際交流セ

ンターの地域貢献のあり方について十分に検討し、地域のニーズに合った日本語教育の講座を企画し、実施していきたい。

謝辞：『実践：日本語教育Ⅰ＆Ⅱ』の『夏休みの宿題の助っ人：留学生の母語による学習支援』（07. 8, 22./8, 23.）の活動を行うにあたり、三重県教育委員会の小中学校教育室、鈴鹿市教育委員会、エスペランサ教室、松阪市教育委員会、にじ教室の関係者の皆様、共に活動した留学生に心より御礼申し上げます。なお、本報告における感想や写真等は掲載許可を得たものであることをお断り致します。

注

1. 国際交流基金は、三重大学が国際交流事業経費として助成するもので、①国際感覚をもった人材の育成、②国際的な人間関係の構築、③学内体制の国際化、④グローバルな課題での国際共同研究、⑤地域の国際交流への貢献を目的として助成が行われている。
2. 三重県の国際化が進んでいる。2008年1月1日現在では県内の外国人登録者数が4万9304人で、調査が開始された1989（平成元年）の1万441人から約4.7倍となっている。また、約191万人の県人口に占める割合は過去最高の2.58%で、市町村で多いのは①鈴鹿市、②四日市市、③津市、④伊賀市、⑤松阪市の順となっている。（<http://www.chunichi.co.jp/article/mie/20080101/CK2008010102076444.html>）
3. 参加した学生は、日本での滞在が数年に渡る大学院所属の留学生、渡日後1年未満の日本語が十分話せない留学生、幼少期に渡日し三重で家族とともに暮らす学生、日頃留学生をサポートする日本語学習サポートサークル「てらこや」の日本人学生のメンバーたちである。
4. 文化庁「生活者としての外国人」事業として、「三重大学ボランティア日本語講師養成講座2007」では、「言語学」「日本語学」「日本語史」「教授法」「語彙」「文法」「音声」「異文化理解」「異文化間コミュニケーション」「待遇コミュニケーション」「多文化共生社会への理解」「総合指導実習」を三重大学国際交流センターで教授すると共に、外国人学習者に教えるための実践教育指導「実習」を、久居国際交流協会の日本語教室の協力を得て行った。

参考文献

- 中島和子（2008）「多文化共生社会を築く日本語講師へー母語指導の重要性ー」『平成20年度日本語教育学会第1回研究集会予稿集』pp 97－105
- 縫部義憲（1999）『入国児童のための日本語教育』スリーエーネットワーク
- 福岡昌子（2005）「ボランティア日本語教師養成講座『実践：日本語教育』実施報告ー留学生センターにボランティア日本語教師が期待することー」『三重大学留学生センター紀要』第7号、pp 91－104
- 福岡昌子（2005）『2004年度三重大学国際交流基金国際交流事業実施報告書 ボランティア日本語教師養成講座「実践：日本語教育」国際交流センター
- 福岡昌子（2008）『実践：日本語教育Ⅰ＆Ⅱ』企画実施報告ー（1）Ⅰ. ボランティア日本語教師養成講座『実践日本語教育シンポジウム』（07. 9. 1.）&Ⅱ. 『夏休みの宿題の助っ人：留学生の母

語による学習支援』(07. 8. 22./8. 23.)、pp 93－112.

福岡昌子 (2008) 『2007 年度三重大学国際交流基金国際交流事業実施報告書 ボランティア日本語教師養成講座「実践：日本語教育 I & II」』国際交流センター (87 頁)